

広島県立美術館

# 研究紀要

第16号

- 船田玉樹の詩集 ..... 永井 明生 1(48)  
— 資料紹介・自作詩集『庭』他五編 —
- サルバドール・ダリ《ヴィーナスの夢》における、  
塗り隠された縄跳びについての発見とその試論 ..... 山下 寿水 36(13)
- 広島県立美術館館蔵品データベースの構築について ..... 福田 浩子 編 48(1)

2 0 1 3

BULLETIN  
OF  
HIROSHIMA PREFECTURAL ART MUSEUM

No.16

Constructing the Database of Collection of Hiroshima Prefectural Art Museum ( 1 ) 48  
**Edited by FUKUDA SIDDIQI, Hiroko**

On a New Finding of Paint Out on Skipping Girl's Rope in "Dream of Venus" by Salvador Dalí (13) 36  
**YAMASHITA, Hisana**

Collected Poems by Gyokuju Funada (48) 1  
Introduction of the Materials, Collected Poems "Garden" and Other 5 Volumes  
**NAGAI, Akio**

2013

HIROSHIMA PREFECTURAL ART MUSEUM  
HIROSHIMA JAPAN

# 広島県立美術館館蔵品データベースの構築について

福田 浩子 編

## 1. データベース構築の契機

今回の作品データベース構築については、厚生労働省による雇用創出基金事業の緊急雇用対策一般公募事業のひとつに、有限会社アイ・ティー・エスによる「広島県立美術館収蔵品検索サイトの構築事業」が選定されたことから始まった。この事業群の決定は、平成23(2011)年1月20日朝のNHKローカルニュースで報道され、とりわけ当館事業を重点的に取り上げられたこともあり、諸方面から注目を集めることとなった。

同事業の提案者は、前述の有限会社アイ・ティー・エス（代表取締役：田川育伸氏）で、同社は企業独自のシステム構築を主に行っている広島市内のソフトウェア開発会社である。それまで当館との事業実績はなく、当館側もまったく予期していない事業案であった。公募選考途中以降に設けられた当館側の担当が筆者である。事業選定を行った商工労働局雇用基金特別対策プロジェクト・チームから県民の誰もが利用できる案件という評価を受けたと聞いている。

緊急雇用対策の事業であるから、データベース構築の各工程において雇用を生み出すことが目的のひとつでもあり、システム開発を中心的に行った田川氏をはじめ、美術館側との各種調整役の藤原氏はもちろん、多数の外部の方の力をお借りして、今回のデータベースが作り上げられた。本稿は、今回の館蔵品データベース構築の経緯と概要を記録として残すために記すものである。

## 2. 今回のデータベース構築以前の状況

昭和43(1968)年に開館した広島県立美術館は、平成23(2011)年度末現在で4,399点の美術作品および美術資料を所蔵し、保管維持すると同時に展示の用に供している。平成8年のリニューアル・オープンを控え、広島県ゆかりの美術作品、1920-30年代の美術作品、日本を含むアジアの工芸という3本の重点収集方針に則ってコレクションの充実をみた。平成2(1990)年以前の館蔵品に関する情報は冊子体の目録に掲載されていたが、それ以降の収集品についての情報は作品台帳と作品カードが主力であった。

### (1) 作品台帳

台帳記載の項目は、受入年月日、作者名、生没年、作品名、制作年、納入者、購入価額、備考である。場合によって各作品の担当学芸員が追記している場合がある。

### (2) 作品カード

作品カードの項目は、表面に大分野、中分野、備品記号、中分野の作品番号、員数、作品名、制作

年、寸法、材質技法、制作者、制作者の生没年、所属、納入者（納入者、寄贈者、その他）、備考、写真貼付欄、写真管理欄、裏面には参考文献、使用歴欄がある。

作品カードとポジフィルム、その他の関連資料（主に紙）はカットフォルダーに1作品分ずつ収め、カードキャビネットに収納して管理している。本論から逸れる話題であるが、このスタイルはフィルム保存の観点では好ましいとは言いがたい。なお、作家＝制作者についての情報は、別に作家ごとのカットフォルダーを使用して保管している。

### (3) 冊子体の館蔵品目録

冊子体として最後に印刷・発行された館蔵品目録は、平成2（1990）年発行の館蔵品目録である。これにはそれ以前に収集した計1,594点がモノクロ写真とともに収録されている。内訳は表1のとおりである。現在とは分野ごとの作品内容や作品数がまったく異なっていた平成2（1990）年時点での当館のコレクションの傾向がわかる資料ともいえる。この時期より、リニューアル・オープンに向けて重点収集が開始されていたが、新たなコレクションの情報を一覧できる目録は現在までついに発行されなかった。

| 館蔵品目録1990 | 中分野  | 作品数   | 小分野    | 掲載作品数 |
|-----------|------|-------|--------|-------|
| 美術作品      | 絵画   | 1,309 | 日本画    | 230   |
|           |      |       | 油彩画    | 492   |
|           |      |       | 版画     | 107   |
|           |      |       | 水彩画    | 125   |
|           |      |       | 素描     | 302   |
|           |      |       | パステル画  | 6     |
|           |      |       | 平面造形   | 1     |
|           |      |       | 拓本     | 46    |
|           | 彫塑   | 36    | 合成樹脂   | 3     |
|           |      |       | 石彫     | 1     |
|           |      |       | 石膏     | 8     |
|           |      |       | 鑄造     | 7     |
|           |      |       | 木彫     | 16    |
|           |      |       | 立体造形   | 1     |
|           |      |       | テラコッタ  | 0     |
|           | 工芸   | 155   | 陶磁     | 107   |
|           |      |       | 染織     | 6     |
|           |      |       | 金工     | 12    |
|           |      |       | 漆工     | 18    |
|           |      |       | 木竹工    | 2     |
|           |      |       | ガラス    | 1     |
|           |      |       | 七宝     | 2     |
|           |      |       | 人形     | 1     |
|           |      |       | 甲冑刀剣   | 1     |
|           |      |       | その他の工芸 | 5     |
|           | 書    | 94    | 書跡     | 77    |
|           |      |       | 墨象     | 15    |
|           |      |       | 篆刻刻字   | 2     |
| 美術資料      | 絵画資料 | 0     |        | 0     |
|           | 彫塑資料 | 0     |        | 0     |
|           | 工芸資料 | 0     |        | 0     |
|           | 書資料  | 0     |        | 0     |
|           | 計    | 1,594 |        |       |

表1 平成2年刊所蔵作品目録分野別掲載数

### (4) 館蔵品データベースシステム MusethequeV 3 Light/SS

当館は平成8（1996）年リニューアルにあたり、館蔵品データベースをはじめとして各種の機器を導入した。経緯と詳細については、角田新「広島県立美術館の情報機器について」（『広島県立美術館研究紀要』第5号、2001年）を参照いただきたい。なお、当時の館蔵品データベースについてはp.3に記述がある。

その次段階として、平成18（2006）年度以来、今回のデータベース構築まで使用してきたデータベースが富士通製パッケージソフトウェアMusethequeV 3 Light/SSであり、現在も館内公開用館蔵品検索システムとして稼働中である。今回新たに構築したデータベースとの関係については、後述する。Musetheque自体は博物館・美術館資料の管理に特化したデータベースであるから、本来ならば館蔵品すべてをこのシステムで管理すべきところであった。しかし、そうならなかった大きな理由のひとつは、広島県庁の職員が使用するネットワーク（以下、県庁LANと呼ぶ）の制限によって、Musethequeを接続することができなかったことである。そのため、Musethequeは日常的に更新が必要な作品管理には充分活用できず、館内の図書室に設置された来館者用作品検索システムとして稼働している。

### 3. データベースの枠組み

今回のデータベース構築に当たっては、当館で使用中の来館者用データベースMusethequeを残すこととし、管理用データベースは県庁LAN上の各学芸員のパソコンで使用できること、かつ、インターネットを使用した当館ホームページ上でもweb版館蔵品検索システム（web公開用作品データベース）を公開することを目標に、「仕事に使える」データベースの構築を目指した。

そして、3つのデータベース

管理用データベース

館内公開用Musetheque

web公開用データベース

を連携させる方針がアイ・ティー・エスより提案された。

このような複数のデータベースは変更内容が随時同期されるのが常識的だろう。しかし、

学芸員が使用しているパソコンが県庁LANに接続している事情により、管理用データベースの更新内容は他の2つのデータベースに同期するのではなく、ネットワーク上切り離れた状態を維持し、更新作業はUSBメモリを介して手作業で行うという、あまり例のない方法をとることとなった。webデータベース公開後の更新作業は、年間数回、必要に応じて担当者が行っている。web公開用サーバーはCentOS、データベース管理システムにはPostgreSQLを使用している。また管理用データベース、web公開用データベースおよびそのユーザーインターフェースはフルオーダーメイドによって構築されている。これにより管理用データベースから各公開用データベースへの非同期連携や、後述するEUC利用が実現できた。

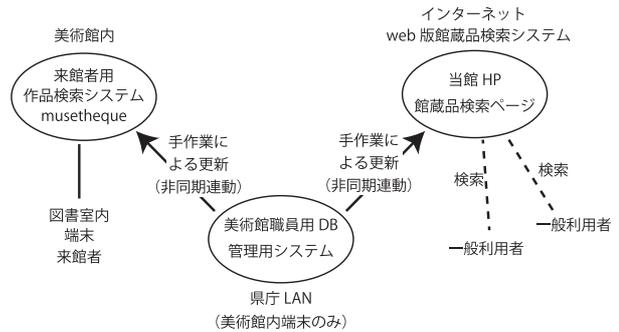


図1 データベース関連図

### 4. web公開用作品データベース

インターネットを使用できる環境ならばどこからでもアクセスして当館の館蔵品に関する基本的な情報を得られるweb公開用作品データベースは、当館にとって初めての試みであった。

データベースへのリンクは、当館ホームページのトップページ（図2）と、所蔵作品展タブのすべてのページに置いた。右図はトップページで、右カラムの所蔵作品紹介枠の下に館蔵品データベースへのバナーを貼っている。

館蔵品データベースに入る前には、当データベースの定義内容、著作権について了承したことを確認するボタンを押すこととなる（図3）。この



図2 当館ホームページトップ



図3 館蔵品検索への入口

ため、各作品情報のhtmlページへの外部からの直リンクはできない仕様となっている。また、館藏品検索ホーム画面の背景には、当館を代表する作品である《伊万里柿右衛門様式色絵馬》2体を置き、web版データベースへの来館者へ親しみを感じていただけるようにデザインを工夫した（図4）。

このホーム画面からは6種類の検索方法を選べ、各検索タブ選択時も他の検索タブが表示されており、いつでも他の検索方法へ移行できる。



図4 館藏品検索ホーム

### (1) おすすめ作品を見る

まず、「おすすめ作品を見る」では、当館を代表する約100作品を一覧して、ビギナーや特に検索目的を持たない訪問者が気軽に楽しめるページとした。初期画面ではテキスト（図5）で右上のボタンで「サムネイル表示」へ切り替えられる（図6）。



図5 おすすめ作品一覧



図6 おすすめ作品サムネイル一覧

また、同ページ「スライドショー」リンクからは「おすすめ作品」に設定されている作品が次々にスライドショー表示される（図7）。



図7 スライドショー

(2) 厳選30の作者を見る

このタブでは、30人の作者リンクから、その制作者の作品を一覧表示する (図8)。

(3) 作者名で検索

作者名での検索は、作者名の漢字と読み(カタカナ)による検索枠を上部に設けている。下部に行~わ行のタブを作り、作家名一覧からも選択できる (図9)。

当館は国内作家だけでなく、海外作家や海外の工芸作品を所蔵しているが、これらも「ウズベキスタン」(国名)や「エルサリ族、トルクメン」(民族名)のようにカタカナ読みでタブ内リストに表示している。

(4) 作品名で検索

作品名での検索結果は、作者名同様に漢字または読み(ひらがな)の部分一致で30件ずつ表示される。



図8 厳選30の作者を見る



図9 作者名で検索



図10 作品名で検索



図11 作品名での検索結果一覧 (30件以上)



図12 作品名での検索結果一覧 (30件未満)

(5) 連想ワード検索

連想ワード検索（図13、14）は、アイ・ティー・エスによる提案により実現した、他館のデータベースにない特徴を持つ検索方法である。

作品名に含まれない、作品イメージによる単語が登録されていて、抽象的な言葉や文様、地名などでヒットする。ひらめきによる作品の印象が言葉として当てられているので、当然のことながら、時には検索者がイメージするものとは異なる結果となる可能性もある。



図13 联想ワード検索



図14 联想ワード検索結果

(6) 分野で検索

最後は分野別の検索である。大カテゴリーから小カテゴリーを選ぶと、検索結果として作品が30件ずつ表示される（図15～21）。

例えば、絵画内のカテゴリーとして日本画、油彩画、版画、水彩画、素描、パステル画、平面造形、拓本があり、工芸内カテゴリーとしては陶磁、染織、金工、漆工、木竹工、ガラス、七宝、人形、甲冑刀剣、その他の工芸といった主に素材による分類がある。

分野は、館蔵品管理のため使用している分類を採用している。なお、絵画カテゴリーの平面造形には、もしかすると別分類にした方がよいかもしれない写真や工芸の平面作品の一部も過去の収集経緯の中で含まれている。



図15 分野で検索



図16 絵画カテゴリー内のサブカテゴリー



図17 日本画選択結果（一例）



図18 彫塑カテゴリー内のサブカテゴリー



図19 工芸カテゴリー内のサブカテゴリー



図20 書カテゴリー内のサブカテゴリー



図21 美術資料カテゴリー内のサブカテゴリー

## (7) 個別作品ページ

上述の6種類の検索方法の結果、表示される個別作品の詳細ページには、作品の基本情報として作品名、作者名、材質・技法、寸法、制作年、作品解説の項目を置いている。学芸員が分担執筆した作品解説はweb版データベース公開時点で約150点掲載し、順次追加している。

左側の作品画像をクリックすると、拡大画像が表示される。web公開用画像は、縦横の長辺を500

ピクセル、72dpiとし、電子透かしを入れた。



図22 作品詳細ページ



図23 作品画像拡大表示

## 5. 管理用作品データベース

前述のように、県庁LAN上にある管理用作品データベースは学芸員が主に作品管理に使用する。web公開用館蔵品データベースや館内来館者用データベースの基礎データを管理するものである。

### (1) ユーザー管理

県庁LANにIDを持つ学芸員およびその他の美術館職員に、データベースへのログインは個別のIDとパスワードを使用し、それぞれの使用状況が管理者モードからは見えるようになっている。また、ユーザグループ管理として、カテゴリーごとにアクセス者を制限することもできる。



図24 ログイン画面

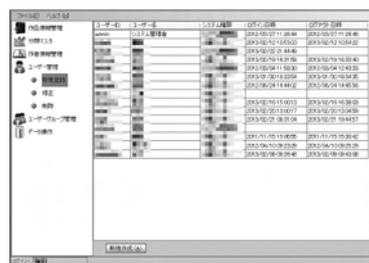


図25 ユーザー管理



図26 ユーザグループ管理

### (2) 作品情報管理

このデータベースの根幹である作品情報の管理を行う部分である。各作品情報は作者名、作者名(カタカナ)、作品名、分類記号、分類記号と組み合わせた作品番号から検索して表示できる。

作品情報検索結果として表示されるリストの頭のチェックボックスにチェックすることで、サムネイル表示や作品目録作成などに活用するためのcsv形式での出力ができる。

作品を選択するとその作品の詳細情報が表示される。



図27 作品情報検索

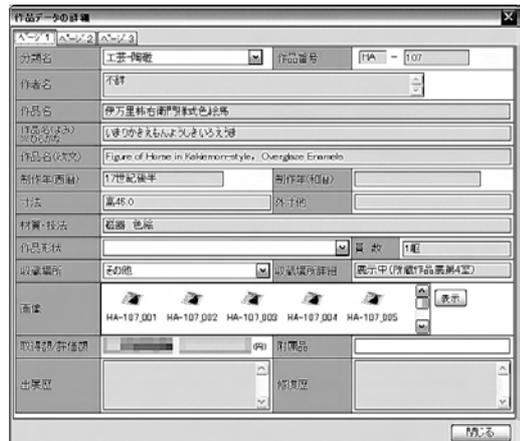


図28 作品詳細情報 1



図29 作品詳細情報 2

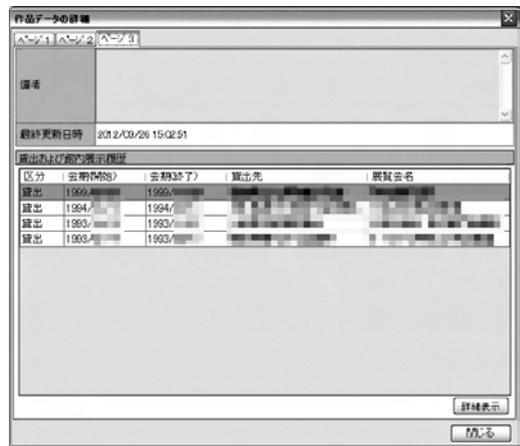


図30 作品詳細情報 3

ページ 1 (図28) では、分類番号、作品名、制作年、寸法、材質・技法など。ページ 2 (図29) では、web版作品データベースの「連想キーワード検索」のキーワード、web版や館内検索の公開フラグ、「おすすめ作品」掲載フラグ、作品解説など。ページ 3 (図30) は、備考や貸出歴の記録となっている。貸出歴はさらに別ページでそれぞれのデータを記入する (図31)。



図31 貸出情報



図32 公開フラグ一括登録

このシステムでは、館内用とweb用にそれぞれデータをパッケージとしてエクスポートするため、画像データのファイル、そして作品情報（テキスト）の1件ずつのデータに対して、館内用とweb用に公開するか非公開とするか選択できるようになっている。この選択は各作品情報詳細画面でも行うが、公開フラグ一括登録画面ではリスト形式の状態で開催・非開催の区分を変更できる（図32）。多数の作品を扱う場合に便利な機能である。

(3) 分類マスタ

分類マスタは作品の分類を整理して、作品情報に割り当てる基本情報管理画面である。館藏品は美術館所蔵作品として管理されると同時に、県の物品管理規則に基づいた管理も行われるので、作品としての分類番号と県の物品という意味の備品番号とが併存する。この分類マスタは、作品情報を管理する際に、これらの分類や番号を扱う手間をできるだけ簡便化してくれるものである。

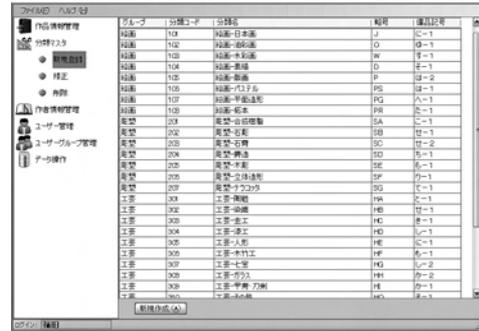


図33 分類マスタ

(4) 作者情報管理

作者情報を管理するページである（図34）。検索後に表示される作者のリストから作者詳細情報を開く。作者という名称ではあるが、作品によっては「アフガニスタン北西部」のように地名や民族名が作者名として便宜的に扱われている。館によっては、地名や民族名は備考欄に入れられるが、当館の場合は制作者情報としているため、このような処理となっている。



図34 作者情報管理

(5) データの構造

このデータベースの構造は図35のようになっている。実際のリレーショナルデータベースの各テーブルの項目はさらに複雑である。台帳と作品カードはデータベース内には存在しないが、登録データの作成にあたって基本情報となったものである。

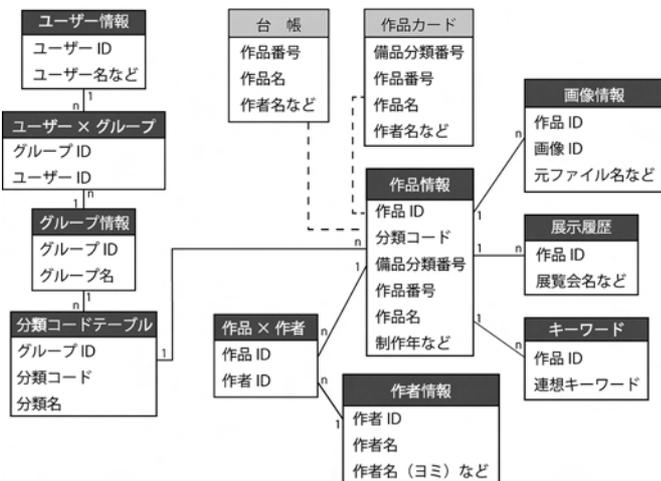


図35 データ構造の概念

## 6. EUCビュー

管理システム内に登録されたデータは、データベース外からEUCによってデータ抽出ができる。EUCとは、エンドユーザーコンピューティング (End User Computing) の略で、一般ユーザーが生産性の向上をめざし、コンピュータを使い簡単にデータベースを検索・抽出することを意味する。管理システムを使わずに、Microsoft Access等からデータを抽出し、Excelにデータコピーして利用することができる。今回のデータベース構築にあたり、開発者側からは基本的な作品情報や作者情報など、12種類のEUCデータが提供された。また、Accessを通して登録データのすべての項目を抽出することもでき、前述の開発者によって作成されたEUCデータに含まれない項目にもアクセス可能な、当初は予想していなかったきわめて重宝な機能である。

## 7. バックアップ

管理システムのデータのバックアップは毎月1回、管理サーバー内で定期的に行われている。しかし、管理サーバー内のバックアップなので、別媒体への退避は手動で行う。

## 8. おわりに～データベースの課題と将来

今回のデータベース構築によって、現在までの作品情報がデジタル化された。このデータベースを将来も活用していくためにはデータの追加更新を継続し、最新データを維持することが大切である。また、機器の故障や災害時にこれまで培ったかけがえのないデータを消失することをできるだけ避けるため、データのバックアップを心がけたい。データの保護という観点からは、例えば遠く離れた場所にサーバーが設置されている文化遺産オンライン等の外部データベースに参加することによって、一部のデータだけでも確保しておく可能性を考えてもよいだろう。

本稿では、このデータベースの構築に関わる経緯や内容について記録としてまとめようとしたが、編者のデータベースやパソコンに関する知識が充分でないため、本データベースの概要をうまくまとめられたか心許ない。

著作権の問題や作品写真の有無により、作品画像情報は公開できないものもあるが、テキスト情報は可能な限り登録し、web公開を継続している。当館の館蔵品に関心を持つ人がwebを通じて情報に接していただくことを願う。作品情報の管理は勿論のこと、web版データベースは作品情報を時代やユーザーのニーズに添った形で提供するひとつの手段でもあり、当館館蔵品の活用を進めることができると信じる。

### 【参考文献】

- 2001角田新「広島県立美術館の情報機器について」『広島県立美術館研究紀要』第5号、広島県立美術館  
 ([http://www1.hpam-unet.ocn.ne.jp/htdocs/images/about/BulletinNo05\\_Kakuda2001.pdf](http://www1.hpam-unet.ocn.ne.jp/htdocs/images/about/BulletinNo05_Kakuda2001.pdf)にも掲載。2013.1.31参照)
- 2004村田良二「東京藝術大学大学美術館収蔵品データベースの構築」、『アート・ドキュメンテーション研究』第11号、  
 pp.61-73、アート・ドキュメンテーション学会
- 2010佐藤克己「新潟県立近代美術館・万代島美術館所蔵作品データベースの作成について」『新潟県立近代美術館

研究紀要』第9号、pp.36-39. (<http://www.lalanet.gr.jp/kinbi/collection/bulletin/09/sato.pdf>, 2013.1.31参照)  
2011佐藤克己「新潟県立近代美術館・万代島美術館収蔵作品データベースの改良について」『新潟県立近代美術館研究紀要』  
第10号、pp.31-36、44. (<http://www.lalanet.gr.jp/kinbi/collection/bulletin/10/sato.pdf>, 2013.1.31参照)

**【図版】**

図3-23：有限会社アイ・ティー・エス作成の館蔵品検索システムweb版画面

図24-34：有限会社アイ・ティー・エス作成の館蔵品管理システム画面

図1,35：編者作図

**【謝辞】**

美術館・美術品への理解と情熱をもって当データベースを開発された有限会社アイ・ティー・エスの田川育伸氏および藤原真澄氏、多大なる協力を得た当館総務課・学芸課全職員、連想キーワード割り当て等を受け持たれた加藤真理氏、データの更新に協力された向井知美氏をはじめ、館蔵品データベース構築と維持作業に関わるお名前を記すことのできないすべての関係者の皆様に感謝します。

(ふくだひろこ編／当館主任学芸員)